



大雨が降ると川があふれます

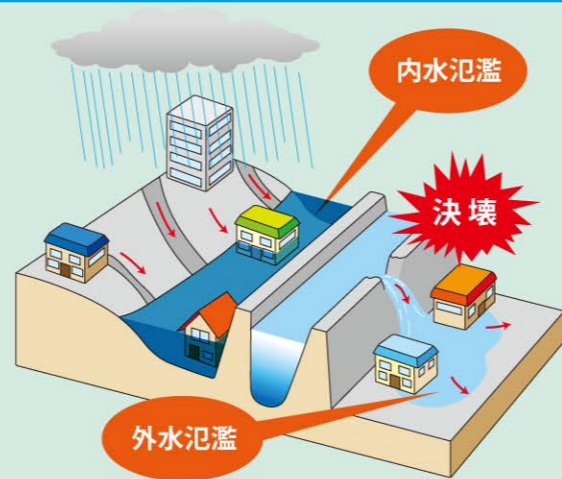
川の氾濫（内水氾濫・外水氾濫）

内水氾濫

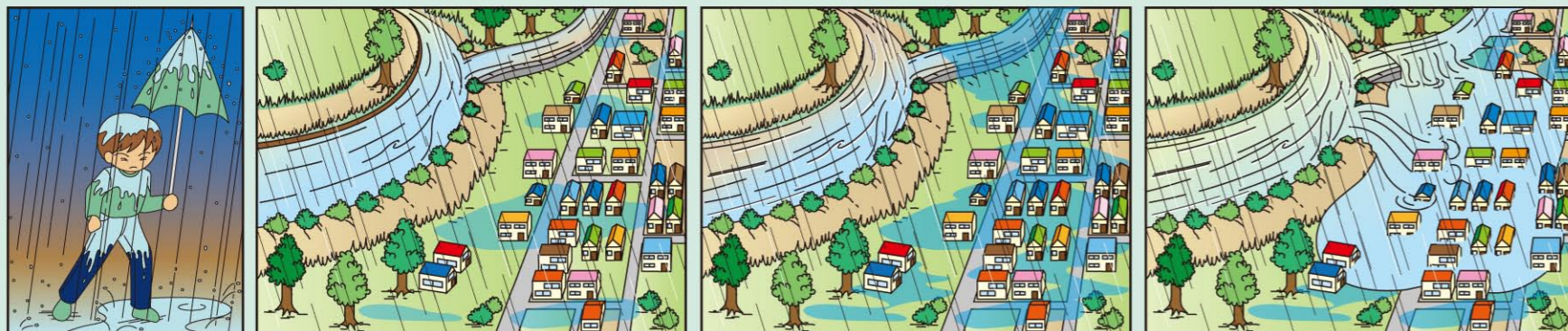
雨の量が下水道や道路側溝などの排水施設の能力を超えたり、河川の水位が高くなって雨水の排水ができなくなることで発生する浸水を内水氾濫と言います。
ハザードマップに示されていない場所でも、内水氾濫の可能性があります。

外水氾濫

大雨によって河川の水位が高くなると、堤防を越えて水があふれたり、堤防の土砂が流出して決壊することがあります。
ハザードマップに示した浸水想定区域図は、阿武隈川、油井川、杉田川及び水原川の外水氾濫を想定したものです。



内水氾濫の発生 外水氾濫(洪水)の発生



非常に激しい雨が降ると・・・
雨水が下水道や道路側溝などで排水できずに溜まります。
さらに雨が降り続けると、大きな河川の水位が上昇し、中小河川の排水が難しくなりあふれ出す恐れがあります。
堤防が決壊すると、大きな被害が発生します。

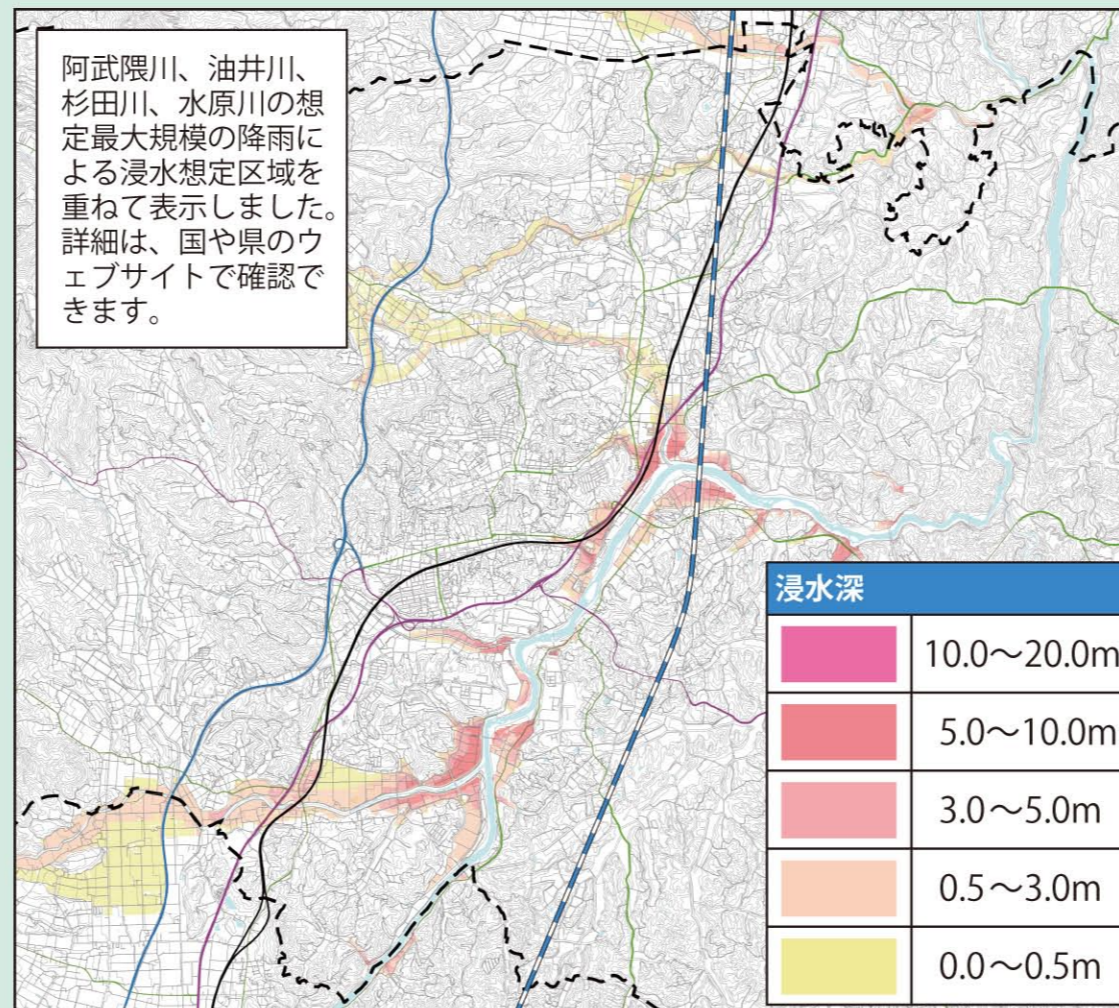
浸水想定区域図の想定条件

総合ハザードマップでお示しする「浸水想定区域図」は、水防法の規定により阿武隈川、油井川、杉田川及び水原川が氾濫した場合に想定されるもので、次のような条件で想定を行っています。

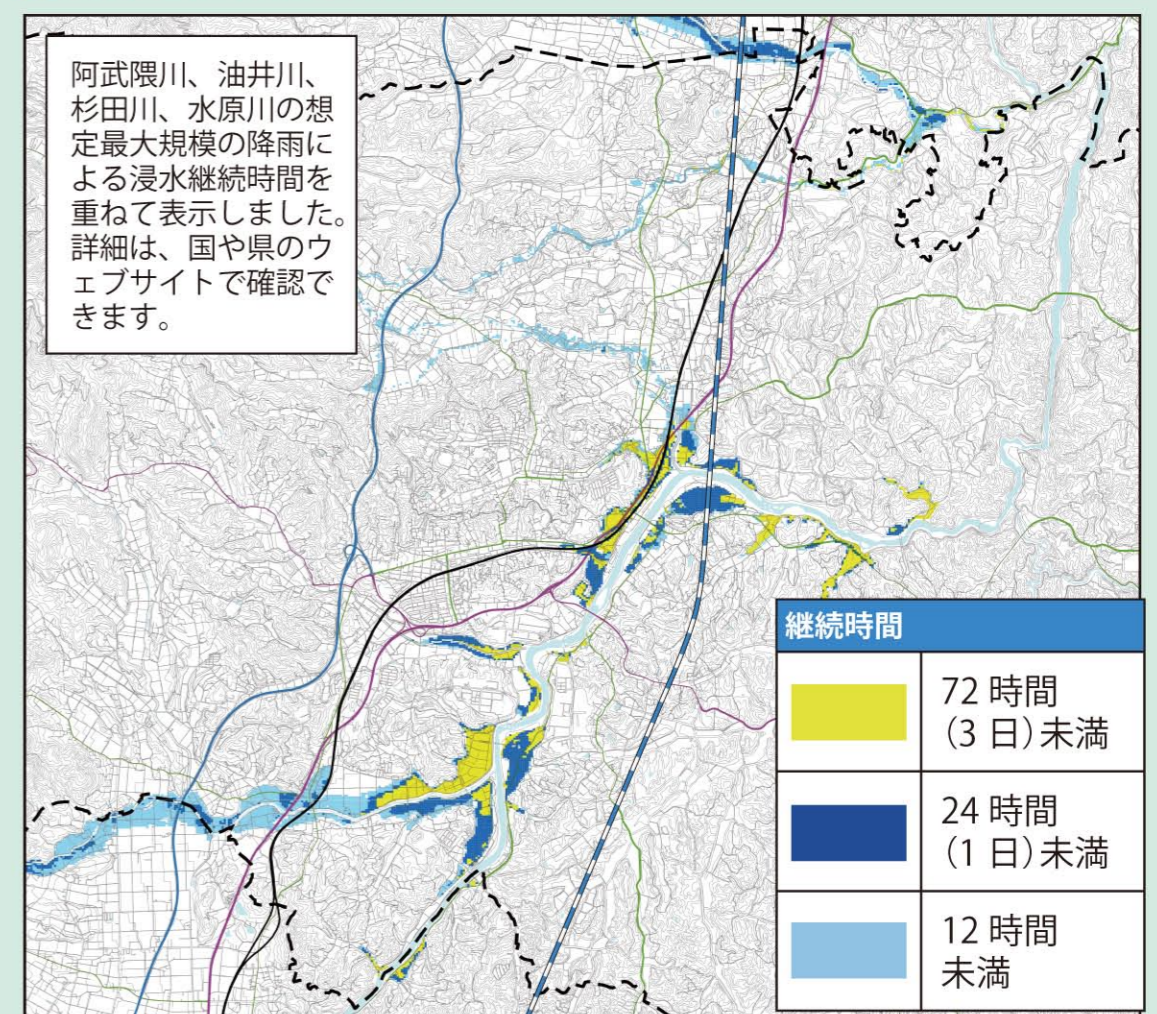
- 阿武隈川：
前提となる降雨：想定し得る最大規模の降雨（福島流域の2日間の総雨量 323mm）
作成主体：国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所
指定年月日：令和2年3月27日
- 油井川：
前提となる降雨：1/1000年確率*2（油井川流域の48時間の総雨量 318.8mm）
作成主体：福島県
指定年月日：令和3年11月26日
- 杉田川：
前提となる降雨：1/1000年確率*2（杉田川流域の2日間の総雨量 319mm）
作成主体：福島県
指定年月日：令和3年11月26日
- 水原川：
前提となる降雨：1/1000年確率*2（水原川流域の24時間の総雨量 332mm）
作成主体：福島県
指定年月日：令和4年10月18日

※このシミュレーションの実施にあたっては、支流の決壊による氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合があります。
※2その流域で1年のうちに想定雨量を超える雨量が発生する確率が1/1000を意味する。

想定最大規模の降雨による浸水想定区域図



想定最大規模の降雨による浸水継続時間

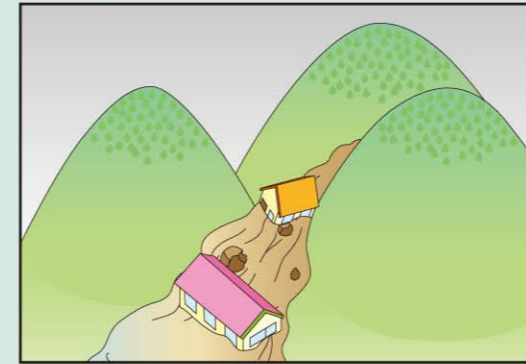


土砂災害

土砂災害とは

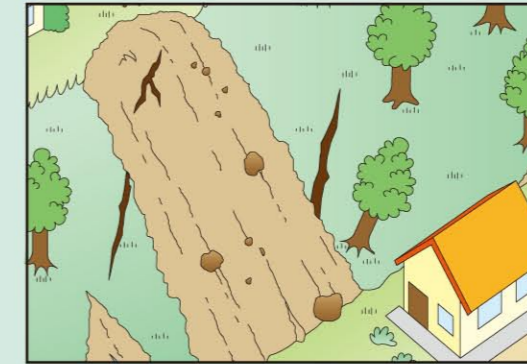
土砂災害は、土石流、がけ崩れ（急傾斜地の崩壊）、地すべりの3種類に分類されています。

土石流



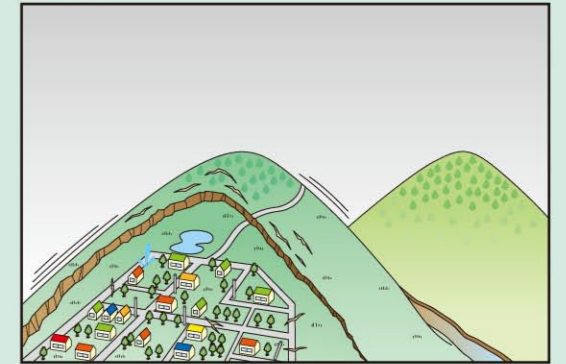
- 山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などの影響によって、一気に下流へと押し流される現象です。
- 規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で、破壊力がとても大きいです。

がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)



- 急な斜面が雨水の浸透や地震などの影響によって、突然崩れ落ちる現象です。
- 突然発生し、かつ崩れるスピードが速いです。
- 崩れた土砂は、斜面の高さの2~3倍も離れた距離まで届くことがあります。

地すべり



- 比較的緩やかな斜面が地下水などの影響によって、斜面下方へ移動する現象です。
- 斜面の表面部分が崩れ落ちる表層崩壊と、深層の地盤までもが崩れ落ちる深層崩壊があります。
- 大雨や融雪時に発生しやすく、一度に広範囲が動くため、被害が大きくなります。

自宅の土砂災害への危険度を調べましょう

県は、土砂災害防止法に基づき、避難体制を整備する土地を「土砂災害警戒区域」「土砂災害特別警戒区域」として指定しています。また、土砂災害の危険がある地区には「土砂災害危険箇所」として、「急傾斜地崩壊危険箇所」を指定しています。この他、山地において土砂災害の危険がある地区は「山腹崩壊危険地区」「崩壊土石流出危険地区」として把握されています。これらの地区は、土砂災害の危険が高いため、雨のときにはこまめに情報を確認し、大雨になったらすぐに避難するなどの対応を決めておきましょう。また、今いる場所が土砂災害の危険があるかを本マップで確認しておきましょう。

※土砂災害警戒区域等は、住宅などがある地区を指定します。このため、住宅が無い地域では、危険な区域とされていないところでも、土砂災害の可能性もあります。道路の通行や避難の際には、「ガケ」に注意しましょう。